

認知症地域支援コーディネーター(仮称)配置事業について【案】

1. 目的

認知症発症期のできるだけ早い段階において、本人・家族に必要な支援を行うことで、認知症の進行を遅らせるとともに、認知症の方が住み慣れた地域で自分らしく暮らしていくことができるよう、専門的知識を有する認知症地域支援コーディネーター(仮称)を各地域に配置する。

認知症への理解を深めるため支え合いの担い手となるサポーターを養成し、認知症の方が積極的に社会参加できる環境を整備するとともにサポーターの支援により自立した生活が実現できる地域づくりを促進する。

2. 求められる役割

- ・初期(診断直後)の段階から本人、家族への支援
- ・認知症初期集中支援チームなど関係機関との連携
- ・関係機関をつなぐコーディネーター役
- ・地域の資源(地域の茶の間、認知症カフェ等)の把握
- ・認知症サポーターを増やす
- ・認知症にかかる啓発活動
- ・チームオレンジ全体を統括

3. 配置場所の検討

配置場所	地域包括支援センター	区役所	病院
メリット	・地域資源を活用しやすい ・地域とのつながりが作りやすい	・地域資源を活用しやすい ・地域とのつながりが作りやすい(包括よりは範囲が広がる)	・相談者を病院、医療サービスにつなげやすい、また、その逆もあり ・初期集中支援チームとの連携が容易
デメリット	・医療機関との連携が比較的弱い	・医療機関との連携が弱い	・地域とのつながりが弱い
配置数	・29か所	・8か所	・認知症疾患センター(2か所) ・初期集中支援チーム(5か所)など

4. 主な業務と連携先

- 相談窓口(診断直後、初期等)
→ 初期集中支援チーム、包括Cと相互連携
- 地域における認知症サポーターの養成
→ 委託業者等と連携
- チームオレンジの立ち上げ支援
→ 包括C、自治会町内会、支え合いSC等と連携
- 地域資源(認知症カフェ等)の開発支援
→ 支え合いSCと連携
- 医療・介護等支援ネットワークの形成
→ 包括C、支え合いSC、初期集中支援チーム等既存のネットワークを活用

5. 支援体制のイメージ

